

# 平成29年 鳥取市政10大ニュース

順位	項目	説明
1	第5回日本「住みたい田舎」ベストランキング総合部門1位、鳥取市が初受賞！	「2017年版住みたい田舎ベストランキング（宝島社『田舎暮らしの本』2月号）」で、鳥取市が総合部門の第1位に輝いた。 第5回となる「住みたい田舎ランキング」は、全国500の市町村を対象にアンケートを実施し、田舎暮らしに最適な自治体をランキングしたものであり、「鳥取市の自然が豊かで暮らしやすく、幅広い世代を応援する施策が充実していること」が評価された。この度の総合部門1位の評価をいただいたことは大変光栄であり、今後も引き続き移住定住施策を推進していく。
2	平成30年4月の中核市移行が正式決定	本市の中核市移行は、本年3月に市議会の議決、7月に県知事からの同意書の交付を得て、11月に中核市指定に係る政令の閣議決定の後、政令が交付され、平成30年4月1日の中核市移行が正式に決まった。現在48ある中核市は、本市と同時期に移行する5市とともに54市となる。 中核市移行の後、新本庁舎が完成して駅南庁舎に保健所を開設する平成32年3月頃までの約2年間の保健所暫定施設として、福祉・保健・医療分野の業務を行う「さざんか会館（2階）」や、環境・衛生の業務を行う「県東部庁舎（4階）」の整備も進んでいる。 本市の中核市移行は、「住んでよかった、いつまでも暮らしたい」まちづくり、また、山陰東部圏域全体の発展の礎となるための新たな第一歩であり、市民に身近なサービスの充実、拡大する権限を活かした、市民が暮らしやすい魅力と活力のあるまちづくり、圏域の発展を目指し、山陰東部圏域の中核となる都市づくりを進める。
3	33年ぶりの大雪による被害への対応	本年2月に降った雪は、昭和59年以来33年ぶりの豪雪となり、市民生活に大きな影響を及ぼした。市内の道路は、国、県、市などが連携し、通常体制よりも増強して除雪作業を進めたが、路面状況がなかなか改善されず、公共交通機関の運行などに大きな影響が出た。また、園芸施設や製材所の建屋の倒壊など、農林水産業へも甚大な被害が発生した。 これらを受け、本市では、応急的な対応として、市民の皆さんが除雪された雪を持ち込むことのできる排雪場所を市内に複数設置したほか、各町内会が除雪等に要した経費の一部を助成する「鳥取市コミュニティ雪害対策臨時支援事業」を予算化し、各町内会の除雪作業を支援した。また、園芸施設の再建を支援するため、県・市・JAで援農隊を結成し、倒壊した園芸施設の撤去作業を実施するとともに、復旧のための予算を確保し、復旧を支援した。 今後も、除雪計画の見直しなどを行うとともに、国、県、関係機関との連携を図りながら、大雪への対策を行っていく。
4	新本庁舎の施工業者が決定し、建設工事に着工	鳥取市新本庁舎の建設については、本年4月に定めた「鳥取市新本庁舎建設工事発注方針」に基づいて、工事入札を行い、本庁舎棟建築等の施工業者を決定した。最初の工事となる地盤改良等工事が11月中旬に終了し、11月21日の起工式を経て、新本庁舎棟新築工事に着手している。防災、市民サービスの拠点であり、山陰東部圏域の一体的な発展の礎となる新本庁舎の整備について、平成31年秋の開庁に向け、着実に取り組みを進めていく。
5	ジャマイカ陸上チームの東京オリンピックキャンプ地に鳥取市が選ばれる	ジャマイカ陸上チームの東京オリンピックの事前キャンプ地として鳥取市が選ばれ、11月8日に協定を締結。ジャマイカ陸上チームが鳥取でキャンプを行うのは、2007年世界陸上大阪大会、2015年世界陸上北京大会に続き3回目となる。 世界レベルの選手を間近に見ることにより、本市の陸上競技のレベルアップやスポーツ振興につなげていきたい。
6	鳥取市河原町西郷地区にて「いなば西郷工芸の郷」がスタート	鳥取市河原町西郷地区が工芸作家などを受け入れ、豊かな地域文化の育成と地域活性化を目指すいなば西郷むらづくり協議会が策定した「いなば西郷工芸の郷」構想において、初の受け入れ作家となる陶芸家の花井健太氏の移住にあわせ、本年4月22日に同地区で「郷開き」が開催された。 「いなば西郷工芸の郷」構想は、人間国宝であるやなせ窯の白磁作家 前田昭博氏の、同地区を「ものづくりの里」にしたいという思いに端を発したものであり、本市も、作業場の建設や窯の設置について（一財）西郷工芸の郷あまじやくに支援を行ってきた。 この「工芸の郷」構想の取組が本市の地方創生の先進的なモデルケースとなるよう、今後も引き続き支援を行っていく。
7	砂の美術館10周年記念事業「鳥取砂のルネッサンス2017」開催！	「砂像」という新しい芸術を用いて新たな価値観を創り、ふるさと鳥取市の郷土愛を醸成するとともに、市全体のブランド力向上を目的に「鳥取砂のルネッサンス」を開催した。 平成29年10月20日より鳥取駅前周辺を会場に世界トップクラスの砂像彫刻家によるシンボル砂像公開制作を実施。また、11月3日から5日まで鳥取初開催となる「国内砂像選手権in鳥取」や「ちびっこ砂像選手権」「砂像サミット」「サンド・アート」など様々なイベントを行い、「砂像文化」の定着とまちなかの経済効果やまちの賑わい創出に取り組んだ。
8	麒麟のまち関西情報発信拠点が、大阪の経済・文化の中心地中之島にオープン！	本年4月10日、鳥取県東部と兵庫県北但西部の1市6町で構成する「麒麟のまち圏域」の情報発信拠点が、大阪の新たなランドマーク「中之島フェスティバルタワー」にオープンした。本施設の管理運営者である(株)地域商社ととりと協同して、麒麟のまち圏域の魅力的な特産品や優れた観光資源など様々な魅力を発信し、交流人口の増加、地元産品の販路拡大、移住促進を図っていく。
9	「北前船寄港地フォーラムin鳥取」開催！	北前船フォーラムはかつての“北前船”の寄港地同士の連携や交流による地域活性化を目的とし、全国の寄港地で開催されている。本年11月24日に開催されたフォーラムは、全国で22回目の開催となり、「来たまえ！環日本海新時代～北前船レガシーで友情・平和・交流の海へ～」をテーマとし、環日本海地域との交流を深めるとともに、国際観光（インバウンド誘客）について議論するなど、国際色豊かな内容となった。本フォーラムをきっかけに、今後は、日本海側の自治体間、地域間の交流をさらに深めていく。
10	台風18号への対応	平成29年は多くの台風が来襲したが、9月17日、18日来襲した台風18号は、本市に甚大な被害をもたらした。大雨により、複数の地域で土砂崩れや倒木、川の増水が発生し、一部地域が孤立状態となったり、床上・床下浸水による住宅被害など多くの被害が発生した。 本市では、鳥取市災害見舞金の支給を決定するとともに、9月22日には、県と5市町の首長でつくる「鳥取県被災者住宅再建支援制度運営協議会」により、台風18号による災害が鳥取県被災者住宅再建支援条例に基づく自然災害に指定されたことから、住宅に浸水被害を受けた方に対して、住宅再建支援金を支給することを決定した。 また、道路、公園、農林関係などの被害への対応のため、11月17日に臨時議会を招集し、災害復旧においては、平成23年9月の台風12号・15号対応以来の大規模な事業費となる11億748万円の補正予算の議決を受けた。今後は、これらへの対応を可能な限り速やかに進めていく。